

＜実践例 3＞ 第3学年 即興型英語ディベートを目指して
～即興で論理的に自分の意見を述べたり、その場で相手の意見に反論したり
してみよう～ 平成29年12月 (鈴木孝司)

1. 目標

- (1) 既習の英語表現や表現方法を工夫しながら、題材に対して、意欲的に自分の意見を述べようとしたり、相手の意見に対して反論しようとしたりする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 英語表現や表現方法を工夫して、題材に対する自分の立場を支持する理由を論理的に伝えたり、相手の立場を理解した上でその場で反論したりできる。
(外国語表現の能力)
- (3) 相手の意見を聞き取りながら、自分の立場を支持するための主張をしたり、違う立場の意見に対してその場で反論したりできる。
(外国語理解の能力)
- (4) 意見を述べたり、相手の意見を聞き取ったりするために、これまでに学習した英語表現や、論理的に英語で表現する方法を適切に選択して用いることができる。
(言語や文化についての知識・理解)

2. 指導にあたって

(1) 生徒観

生徒は、中学校入当初から「英語で簡単なディベートができるようになる」ことを目標に、英語で会話をより長く続けたり、様々な題材に対してお互いの考えを伝え合ったりする活動に継続して取り組んできた。年度当初の授業に関するアンケートでは、これまで授業の中で最も頑張ってきたことやこれからできるようになりたいことについて、半数以上の生徒が、英語で聞いたり話したりすることを挙げた。また授業中の生徒の様子から、ほとんどの生徒が、日本語を使うことなく英語で会話を続けたり、自分の考えを伝え合ったりすることができている。加えて、既習の英単語や文構造を選択して用いながら、粘り強く自分の考えを伝えようとしたり、何度も聞き返して相手の考えを聞き取ろうとしたりできる。中には、相手の反応を見ながら、相手の言語レベルに合わせてより伝わりやすい表現を考えながら話すことができる生徒もいる。その一方で、相手の意見を正確に聞き取ることができるものの、それを受けて即興で反論したり、疑問に思った点を質問したりすることに難しさを感じている生徒が多い。

(2) 教材観

中学校入学当初より、生徒は本単元を附属中学校での英語の学習の最終目標としてきた。英語でディベートを行うことは、以下のような価値があると考えられる。

- ①自分の考えをより適切な英語表現で伝え合うために、これまで学習してきた英単語や文構造から選択して用いる。
- ②自分の立場を支持するために、相手の意見をうけてその場で質疑応答したり、反論したりする。
- ③「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」といった言語の4領域を有機的に関連付けた言語活動である。

また本単元で用いるテーマである「Stores should stay open late at night.」は、3年社会科の「持続可能な社会を目指して」の単元において、本テーマの日本語でのディベートをジャッジする活動を行っており、生徒はそれぞれの立場についてのメリットやデメリットについて考えを深めている。日本語ですでに耕された知識を活用して、英語でも同じようにディベートができる実感を持たせられると考える。本単元で用いるディベートは、山形県立山形東高等学校において実施されている「即興型英語ディベート」で活用されている形式を簡易版にしたものを用いる。本校から多くの生徒が進学する高等学校で取り入れ

られている手法を取り入れることで、高等学校での学習についての見通しも持たせたい。

(3) 指導観 ～目指す生徒の姿に近付けるために～

本単元での授業における、資質・能力を発揮している生徒の姿を、以下のように考えている。

既習事項から、その場に応じて適切な英単語や文構造、表現方法を選択して用い、題材に対して自分の立場を支持する理由を論理的に伝えたり、違う立場の意見に対して質疑応答をしたり、その場で反論したりできる。

英語科では、外国語を通じて主体的に人や社会とかかわりを持ち、場面や目的、相手に応じてより適切に伝え合う生徒を育成することを目標としている。特に第3学年では、即興で論理的に考えを述べ合う生徒を目指している。本単元ではとりわけ以下の点に重点を置き、指導にあたる。

①本単元で付けさせたい資質・能力

これまでの3年間の学習を通じた英語の技能としての高まりや、他教科で学習したことが英語でも活用できることを実感させたい。そこで、3年社会科において同時進行で学習している題材をテーマとした即興型英語ディベートを目指した活動を設定する。英語科の授業に留まらず、中学校での学習で総合的に育んできた資質・能力が発揮される生徒の姿を期待する。これらは学校全体で重視して育てる資質・能力②「知識や技能、経験の生かし所を見いだす力」及び③「場に応じて判断基準をつくる力」に関わる。

②留意点

学習を進めるにあたり、特に以下の点に留意する。

- ・これまでの学習を通じた技能面で高まりや内容面での深まりを教科横断的に実感できるよう、3年社会科「持続可能な社会を目指して」の単元と連携した単元構成となっている。社会科の授業においては、「日本は小売店の深夜営業禁止すべきである是か非か」というテーマで、そのメリットやデメリットを社会科的な視点から考え、ディベート甲子園での試合を実際にジャッジする活動を行っている。社会科で提供された資料や養われた視点を基にして、英語で実際にディベートをする活動を設定している。
- ・中学校の学習としては3年間のまとめの学習となるが、さらにこれからの英語の学習に見通しを持つことができるよう、主な進学先である高等学校で取り入れられている即興型英語ディベートを簡易化した形式を取り入れたディベートを行う。また、実際に高校生がその形式でディベートを行っている映像を視聴させる。
- ・即興で意見を述べ合う力を身に付けさせたり、さらに内容面で深めさせるために、立論に対してその場で質疑応答したり、反論したりする場面を設ける。
- ・ディベートを通して、さらに英語の技能面を高めたり、内容面での深まりを実感させたりすることができるよう、役割や対戦相手を変えながら何度も再挑戦する場を設ける。
- ・生徒が本時の学習を通して何がどこまでできるようになればよいかについて見通しを持って授業に臨み、本時の学習をさらに次時の学習につなげることができるよう、ループリック形式での自己評価を用いて、学習を振り返る場を設ける。なお以下に掲載する本時で用いたループリックは、以下の通りである。

《for debaters》

	S	A	B	C
表現	相手の意見を聞いて、その論点についてその場で適切な表現を用いて質疑応答したり、相手の意見を受けた上で、さらに自分たちの立場を支持する意見をより適切な英語を用いて述べたりすることができる。	相手の意見を聞いて、その論点について、その場でこれまで学習した英単語や英語表現を用いて質疑応答したり、相手の意見を受けた上で、さらに自分たちの立場を支持する意見を述べたりできている。	相手の意見を聞いて、これまでに学習した英単語や英語表現を用いてなんとか質疑応答したり、相手の意見を受けた上で自分の立場を支持する意見を述べたりできている。	論点について、その場で質疑応答したり、自分の立場を支持する意見を述べたりすることが難しい。
	()	()	()	()
理解		その場で質疑応答したり、より説得力のある意見を述べたりするために、相手の意見を正確に聞き取り、それを活かしてディベートしている。	その場で質疑応答したり、より説得力のある意見を述べたりするために、相手の意見の要旨を聞き取ることができている、	相手が言っていることがよくわからず、相手の意見をディベートに活かすことが難しい。
	()	()	()	()

《for judges》

	S	A	B	C
表現		ディベートがスムーズに進行するよう、chairperson manualに書かれた表現だけではなく、その場に依じて学習した英単語や英語表現を用いて、ディベートをコーディネートしている。	ディベートがスムーズに進行するよう、chair person manualに書かれた表現を用いて、ディベートを英語で進めている。	chairperson manualを用いても、英語でディベートを進行することが難しい。
	()	()	()	()
理解	意見やその場での質疑応答の内容、英単語や英語表現がその場に依じた適切なものであったかを正確に聞き取り、聞いたことをもとにしてジャッジできている。	意見や質疑応答の要点、どんな英単語や恣意語表現が使われていたかを聞き取り、聞いたことをもとにしてジャッジできている。	意見や質疑応答の内容を断片的に聞き取ることができ、聞いたことをもとにしてジャッジできている。	意見や質疑応答の内容を理解することが難しく、聞いたことをもとにしてジャッジすることが難しい。
	()	()	()	()

★本単元での授業における資質・能力の発揮につながる姿とそのための手立て

3 学習計画（14時間計画）

学習活動（時数）	目指す生徒の姿（観点）	教師の手だて
1. 本単元で用いるディベートの形式を知る。（1）	これから行うディベートについて、その形式やグループ内での役割について理解している。（意・知）	・学習の見通しを持たせるために、実際にこれから行うディベートと同じ形式の映像資料を用意し、視聴させる。
2. ディベートの形式を体験する。（3）	ディベートの形式に沿って、与えられたテーマについて意見を述べ合う。また、相手の意見に対してその場で質疑応答し合ったり、反論したりしている。（意・表）	・ディベートの形式に慣れることができるよう、これまでに意見交換を行ったことのある題材を用いて、実際の形式に合わせてディベートを体験させる。
3. 「Stores should stay open late at night.」について、ディベートを行う。（8） 本時3/8	★ディベートに向けて、自分の立場を支持する英文を、既習の英単語や文構造を用いて、論理的に話したり書いたりしている。（意・表）	★これまで学習した英単語や文構造を用いて、自分たちの意見をより適切に話したり書いたりできるよう、同じ立場のことについて意見をまとめているグループ同士を交流させる場を設ける。
	★テーマに対して、自分の立場を支持する理由を論理的に伝えたり、違う立場の意見に対してその場で質疑応答したり、反論したりしている。（意・表・理）	★ディベートの中で、相手の主張に対してその場で質疑応答したり、反論したりできるよう、ディベートを想定してペアで質疑応答し合ったり、相手の意見を受けて反論したりする場を設ける。
	同じテーマに対して、立場を変えてディベートしている。（意・表・理）	・両方の立場から意見を述べ合うことができるよう、前時とは反対側の立場でディベートに取り組ませる。
4. 「Stores should stay open late at night.」について、自分の意見を書く。（2）	★テーマについて、ディベートを通して練り上げた英語表現を用いながら、自分の意見をまとまりのある論理的な英文で書いている。（表）	★テーマについて、自分の考えをまとまりのある論理的な英文で書くことができるよう、ディベートで用いたワークシートを参考にさせたり、同じ立場の仲間と交流させたりする。

4. 本時の目標

課題に対して、相手の意見にその場で質問や反論を出したり、相手の意見を受けた上でさらに自分の考えを述べ合ったりしている。

5. 過程

学習活動	目指す生徒の姿	教師の手立て
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> 課題：“Stores should stay open late at night.”という話題について、ディベート形式で意見を述べ合うことができる。 </div>		
1. 課題に対して、考えを述べ合う。 【ペア】 2. グループで、自分たちの考えをまとめる。 【グループ】 3. 立場に分かれて、考えを述べ合う。また、相手の意見に対してその場で質疑応答したり、反論したりする。 【グループ】 (1) ディベートする。 (2) (1)の結果をもとに、グループで考えを再構築する。 (3) 再度、違うグループとディベートする。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、その場で自分の立場を明確にした上で、考えを述べ合っている。 ・学習活動1で述べ合った内容をもとに、自分たちが話す内容を修正したり、加筆したりしている。 ★既習の英単語や文構造、表現方法から適切に選択して用いながら、自分の立場を支持する意見を、述べ合っている。 ★相手の意見に対して、その場で質疑応答したり、反論したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動の見通しがもてるよう、その場で考えを述べ合う場を設定する。 ・より論理的なディベートになるように、学習活動1で述べ合った内容をもとに、再度考えを練り合わせる。 ★より内容を深めたり、より適切な表現に気づかせたりするために、相手の意見に対して、その場で質疑応答したり、反論したりさせる。 ★表現の幅の広がりや、考えの深まりを実感できるように、再度相手を代えて対話活動に取り組ませる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <重点を置いた英語の資質・能力を発揮している姿> ★話題に対して、自分の立場を支持する理由を論理的に伝えたり、違う立場の意見に対してその場で質疑応答したり、反論したりしている。また、相手の意見を受けて、さらにその場で自分の意見を述べている。 </div>		
4. 本時の学習を振り返る。 【個】	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックを用いて、本時の学習を振り返り、次時への見通しを持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の活動につなげるため、本時の学習の振り返りをワークシートに記入させる。

6. 評価とその方法

課題に対して、相手の意見にその場で反論したり、相手の意見を受けた上でさらに自分の考えを述べ合ったりできたかどうかを、学習活動1、2、3のペアやグループ毎の活動の様子の観察、学習活動4でのワークシートへの記入内容から評価する。

7. 生徒の振り返りから

- 社会で学習した内容や、国語で学習した相手を説得して話す方策など、他教科で学習したことを活かしながら、英語でディベートに挑戦することができた。
- 十分に立論や反駁の準備をしたつもりが、実際にディベートをしてみると相手にうまく伝わらなかったり、準備した以上の意見が相手から出されたときに、それに対して反駁できなかったりした。対戦相手を変えてディベートを繰り返していく中で、より自分たちの意見を言えるようになったり、相手の意見に対してよりの確に反論したりできるようになった。
- 学習プリントの評価の欄を事前に読み、自分のレベルに合った目標を設定して授業に臨むことができた。

8. 授業を終えて —事後研究会から—

実践を通しての成果（○）と課題（▲）は以下の通りである。

- 3年間を見通した指導や学習の大切さを、生徒、教師共々に実感した。本学年の生徒には、1年生のオリエンテーションの段階で、「社会性のある話題について、英語でディベートを行う」という3年後のゴールを共有し、これからの英語の学習がすべてディベートにつながっていくことを確認した。その結果、3年間を通して生徒の授業に対する意欲が高く、常に最終到達地点と自分の今の力を比較しながら、少しずつ目標に近づいていることを実感しながら学習に取り組むことができた。
- 生徒は、他教科で学習した内容を他の場面でも生かされることを実感しながらディベートに臨んでいた。特に、国語や社会での学習とのつながりを、生徒は意識していたようだ。
- 本単元の導入時に、山形東高等学校の生徒が同じ話題で英語ディベートに取り組む場面を見せたことで、自分たちが目指す姿がより明確になった。また自分たちの知っている先輩方や、高校での英語の学習の様子は、生徒にとって価値の高いものであった。
- 中学校で学習する範囲を超えた難解な語句や、相手が知らないだろうと考えられる語句を用いなくても、既習の語句や表現を組み合わせて表現する姿が見られた。中学校3年間の積み上げが生徒の思考過程に表れていた。
- 自分たちが言いたいと思っている内容が、より相手に伝わりやすく、かつ、既習表現のみでの確に表現できるようにするために、班や学級を越えて、お互いの表現を比べ合ったり、訂正し合ったりするワークシートを用いた。そのことで、生徒は、表現の高まりを実感したり、それを実際にディベートの場で用いながら、どのような英語表現を用いることで、自分たちの真意が伝わるか、試行錯誤したりしながらディベートに臨んでいた。
- 「POI」を効果的に用いながら、聞き取れなかった内容を繰り返し聞き返したり、その場で追加の質問をしたりしていた。そのことにより、ただの意見の伝え合いだけでなく、相手の意見を正確に受け取った上で自分の意見を述べたり、議論を深めるためにより主体的に聞き取ろうとしたりしていた。
- ▲ 聞く力を育てることが課題である。何のために、何を、どのように聞き取らせるかを、1年生から段階を追って再度整理する必要がある。